

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071800702
法人名	有限会社ケアサービス九州
事業所名	グループホームふぁみりー菰田
所在地	福岡県飯塚市菰田西3-9-10 (電話) 0948-22-5330

評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年10月4日	評価確定日	平成19年11月20日

【情報提供票より】 (平成19年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 4人, 非常勤 3人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(100,000円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成19年9月3日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	62歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	なかお胃腸科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、街中のJRの駅近くに位置し、旧労働基準監督署を改装した建物である。開設から5年を経ており、利用者は次第に重度化し、日常生活動作の介助を要する方も多くなっている。職員研修は、外部での実務研修や内部で月1回の勉強会を実施して全職員の教育を充実させ、それが日々の介護に活かされている。各家族には、事業所便りと担当職員による通信で利用者の状況報告を送付している。職員の適切なケアと人間関係の良さが、利用者や家族の安心・満足・信頼に繋がり、家庭的な雰囲気のもとで、静かで穏やかな生活が営まれている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、台所の消毒や感染症・衛生管理・緊急時・身体拘束のマニュアル作成、市町村への関わり等、全員で評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。今後は方法や経緯を記録してほしい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解し、より良いサービスを提供するために、自己評価は管理者・ケアマネージャーだけでなく、全職員で取り組んでほしい。また、改善計画シート等で、内容を整備し書面化してほしい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に運営推進会議を開催している。現在の運営状況や今後の活動計画、外部評価の結果等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。地域に事業所便りを回覧したり、花火大会を見学する等、委員からの意見を取り入れ、運営や介護サービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族面会時には積極的に声をかけ、意見や要望を聴くように心かけている。また6ヶ月に1回、家族懇談会を実施し、初盆参り・筋力強化・レクリエーション参加等、利用者・家族の要望に応じた対応をし、ケアの充実を図っている。居間には、苦情相談窓口を明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・自治会に加入し、事業所便りを回覧している。地域の盆踊り・花火大会・バザーへの参加や事業所内での夏祭りや餅つき等、近隣の人々との交流を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点が含まれた事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に唱和したり、日々の生活の中で職員同士お互いに言葉使いや態度等注意しあったりし、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・自治会に加入し、事業所便りを回覧している。地域の盆踊り・花火大会・バザーへの参加や事業所内での夏祭りや餅つき等、近隣の人々との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者とケアマネージャーのみで取り組んでいる。前回評価での改善課題については、運営推進会議と全職員に配布・報告し、ミーティング等で検討している。台所の消毒や感染症・衛生管理・緊急時・身体拘束のマニュアル作成、市町村への関わり等、全員で評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	自己評価は全職員で評価の意義や目的を理解し、協議する等して取り組んでほしい。また、外部評価の改善課題を书面化して、全職員で一つひとつの改善方法や経緯について具体的に意見交換し、協働しながら改善して、改善シートとして保存してほしい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催している。現在の運営状況や今後の活動計画、外部評価の結果等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。地域に事業所便りを回覧したり、花火大会を見学する等、委員からの意見を取り入れ、運営や介護サービスの向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、積極的に行政担当者を訪ねて話しをする等、意識的に接触する機会を作っている。事業所の状況報告や介護相談員の受入れを行う等、行政に対して働きかけ、また行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部から講師を招いて制度に関する勉強会を開催し、全職員の制度に関する周知を図っている。	○	今後は制度を利用する機会を想定し、本人や家族に説明する機会を設けてほしい。また・研修の記録は残してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の暮らしぶりや健康状態等、近況報告をしている。2ヶ月に1回、事業所便りを発行し、担当職員による通信では、利用者の健康状態、行事等の写真で報告している。金銭管理については、金銭出納簿を詳細に記録し、各家族に郵送している。また状態変化時は、その都度電話で報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時には積極的に声をかけ、意見や要望を聴くように心がけている。また6ヶ月に1回、家族懇談会を実施し、初盆参り・筋力強化・レクリエーション参加等、利用者・家族の要望に応じた対応をし、ケアの充実を図っている。居間には、苦情相談窓口を明示している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限に抑えるために、管理者は職員との面談を定期的に行い、また運営者も出席する食事会を行う等している。職員が変わる時には、利用者へのダメージを防ぐため、引継ぎを十分に行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用については、性別・年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。運営者・管理者は人間関係や教育訓練に留意し、働きやすい環境作りに努めている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>講師を招いて、全職員参加で人権教育を実施している。その内容についてはミーティングでフィードバックし、日々の支援の中で人権の尊重を実践している。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は年間教育計画を作成し、全職員の希望や能力に応じて、年1回の外部研修、内部は月1回研修を行い、その記録や資料を整備している。また運営者、管理者は、職員の資格取得に協力的である。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入している。全職員は他の事業所や精神障害者の施設で、1日実践研修を行っている。近隣の同業者とは日常的に相互訪問し、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族への事前面接を基本にしている。職員は利用者の自宅や病院を訪問し、利用者の状況等の把握に努めている。本人の利用開始前には、体験入所、見学を行う等し、家族等と相談しながら安心感を持ち、場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は介護するだけでなく、人生相談や料理の味付け、野菜の作り方等、介護の中で利用者から教わることも多い。また利用者同士で車椅子の介助をしたり、利用者と職員でお互いに感謝や労いの言葉かけをしながら、日常生活の中で支えあう関係を築いている。</p>		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の思いや意向を日々の生活の中で聴き取り、困難な利用者については、状態や表情、行動を観察したり、家族から生活歴を聴く等して把握に努め、本人本位に検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>状態の変化に合わせた個別具体的な計画を作成している。月1回のミーティングで担当者が問題を挙げ、職員間で検討している。家族には、家族懇談会時に介護計画の説明を行い、希望や要望を聴くと共に、計画書を了承した署名や押印をもらっている。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは、6ヶ月に1回行っている。入居時や状態変化がある時は本人や家族、必要な関係者と話し合い、随時、介護計画の見直しを行っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が病院で治療を受ける際は通院介助を行ったり、入院した場合は頻りに訪問して、医師・看護師・家族等と連携を図り、情報を共有して、早期退院に向けて支援している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの希望するかかりつけ医の受診を支援し、その通院介助の方法、情報の伝達方法について、家族等と合意している。また、週1回、事業所のかかりつけ医による訪問診察も支援している。利用者の状態によって受診支援を行い、体調の変化があれば家族と連絡をとり、その受診結果は必ず家族に報告している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針がある。入居時に本人や家族には、事業所の方針を伝えている。できるだけ本人や家族の意向を大切にしながら、家族や医療機関、職員と話し合い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	内部研修やミーティング等で、プライバシーや個人情報についての対応を、日頃から話し合っている。職員は排尿誘導時等さり気なく声かけを行う等、利用者のプライバシーに配慮した支援を心がけている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、その日の利用者の希望や体調に配慮しながら支援している。起床や食事、散歩、買物、歌を聴く等、利用者のペースにそって柔軟に支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に準備や片付けをし、また、さりげなく介助を行いながら、同じテーブルで同じ内容の食事を食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は隔日となっているが、本人が希望すればいつでも入浴できるように支援している。入浴拒否する利用者については、状態を見ながらさり気なく誘導して入浴を支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>料理の味見、洗濯物のしわのばしやたたみ、菜園の水遣り等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割等を支援している。職員は利用者に対して感謝の気持ちを言葉で表すようにしている。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>天候や利用者の体調を考慮しながら、できるだけ毎日散歩を行っている。その他、利用者の要望に応じて月2～3回、買い物や年3回程度、ドライブを行い、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、居室や玄関は施錠していない。外出傾向のある利用者を把握して見守りを行い、外出した時は携帯電話を持参して、本人が納得いくまで付き添うようにしている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マニュアルを作成し、年2回事業所独自で避難訓練を行っている。</p>	○	<p>今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。また、非常食や備品等を準備してほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取量と水分摂取量は、全利用者分を記録している。献立は職員が交代で考え、作成している。利用者の嗜好や状態に合わせた調理方法を工夫している。	○	最低年1回は、栄養士等による専門的アドバイスやチェックを受け、利用者の健康管理に努めてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からの採光があり、カーテン等で光を調節をし、随時換気を行っている。職員の話し声も適度で、行事等の写真を飾る等、家庭的な雰囲気居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋式と和式の居室があり、カーベットを敷いたり、筆筒やソファ等の馴染みの家具を持ち込んでいる。ベッドの周りに身の回りの小物、生花、写真等を飾り、利用者それぞれの個性的な居室となっている。		

※ は、重点項目。